



みんなで150周年に向かって！

# 川小だより

学校教育目標

・美点を認める明るい子 ・ルールを守る正しい子 ・背筋の伸びた丈夫な子

【目指す児童像・・・素直な子】

令和5年 6月 1日(木) No.3  
狭山市立入間川小学校  
〒350-1323 狭山市鶴ノ木5-9  
TEL 04-2952-6221 FAX 04-2952-6222

児童数 5 / 31 現在  
491名

## 想定外を想定する

校長 伊藤 秀一

お陰様で今年も5月17日に、全校遠足を実施できました。夏を思わせるような日差しのもと、正午過ぎに稲荷山公園に向かって出発しました。公園では、昼食後に1～6年生で構成する縦割り班ごとに、およそ1時間ドッジボールや鬼ごっこなどして遊びました。1年生も5・6年生によるサポートのお陰もあり、元気に歩き切り、班の一員として元気に遊ぶ姿が見られました。

熱中症や転倒などによる大きな負傷もなく、半日安全に過ごすことができました。こまめな水分補給等の児童の自己管理がしっかりできていたことはもとより、遠足実施までのご家庭における健康管理に感謝申し上げます。

さて、全校遠足はもちろんです。子供たちが学校で安全に過ごすことは、学校教育を行う上での最低限の条件であるとともに、そのためにわれわれ教職員は最大限の配慮をする必要があります。

安全のために配慮すべき視点については、施設や物品等の環境に対する物理的な（ハード）面と、学校の中での過ごし方についての日常の指導（ソフト）面を挙げることができます。その中でも、とくに事故やけがの防止を左右するのは、事前に様々な想定をしているかどうかだと考えます。想定していれば、事故、けがなどはかなり防ぐことができます。

例えば、児童同士の衝突（校舎の内外問わず学校では多いのです）を防ぐために、階段や廊下にセンターラインを引くことで右側通行を促したり、校舎の角にカラーコーンなどを置くことで、児童が遠回りして角を曲がらざるを得ないようにしたりするなどです。

この想定範囲が広がれば広がるほど、学校は安全な環境になっていきます。つまり、「想定外を想定する」力が、教職員はもちろん児童にも身に付くことで、より安全な学校になっていくのです。

実は、今年度狭山市教育委員会は、文部科学省の「学校安全総合支援事業」を受託し、そのモデル地域に入間川小・中学校区が選定されました。事業の内容は、「モデル地域の学校で学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、学校間の連携を促進し（中略）受託都道府県等全域へその仕組みを普及するとともに、学校安全の取組の推進を目指す」というものです。

この事業に本校が参画することにより、学校内や入間川中学校、関係機関との組織的な取組が充実・強化できることや、大学等の専門家からの指導や助言をいただけることは、本校の想定外を想定する力を向上させる契機にもなると確信しております。この事業の推進に当たりましても、保護者・地域の皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。